

人材養成および教育研究上の目的		
<p>医学研究科は、豊かな人間性、協調性及び積極性を持ち、医学に関する高度な専門的知識を備え、地域社会をはじめ日本及び国際社会に貢献できる人材を養成することを教育の理念とする。</p> <p>博士課程においては、医学研究者として自立するために必要な研究能力を培うとともに、医学・医療における特定の専門分野について深い研究を行い得る研究者を養成することを目的とする。養成にあたっては、医学・生命科学等の領域で研究者として必要な幅広い専門的知識と、研究に必要な実験のデザインなどの研究手法や研究遂行能力を修得させる一方、臨床研究者として優れた研究能力等を備えた臨床医の養成も行う。すなわち、主として患者を対象とする臨床研究の遂行能力を修得させるとともに、研究遂行上又は職業上必要な資格の取得や関連学会における認定資格の取得のために必要な教育も行う。</p>		

三つの方針（三つのポリシー）			
学位授与方針 （ディプロマ・ポリシー）	教育課程の編成・実施方針 （カリキュラム・ポリシー）	学生の受け入れ方針 （アドミッション・ポリシー）	
＜博士課程＞			
<p>医学研究科博士課程は、人材養成の目的および教育研究上の目的のもと、次に掲げる資質・能力を有していると認められる者に、博士（医学）の学位を授与する。なお、学位審査は公開で行い、指導教員以外の複数教員で公正に判定し、医学研究科博士課程小委員会での承認を要する。</p>			
知識・理解	<p>【学修成果の目標】 医療・医学・生命科学の専門知識を修得し活用・応用することができる。筆頭著者としての原著論文が、査読を受け権威ある学術誌に採択・掲載される。（DP1）</p> <p>【到達指標】 学位審査において、1 幅広い専門知識、2 論文の斬新さ、3 論文の重要性を評価する。（DP1）</p>	<p>【教育課程の編成】 博士課程前半 1、2 年生は、全ての専攻分野に共通の必修科目ならびに選択科目を受講し、医学研究を実施していく上での幅広い基本的な知識と技術を身につける。2年生では、選択した専攻科より立案された専門性の高い講義を受講し、専門的な知識と技術を身につける。</p> <p>【教育課程の実施（教育方法・授業形態等）】 1、2 年生に対して大学院教育職員資格を有する教員が中心となり、1シリーズ4単位30コマからなる共通授業を2シリーズ計60コマ実施する。2年生には、選択した専攻科において4単位30コマの講義を実施する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 共通科目については、授業の出席状況、受講レポートで評価する。各専攻科においては、レポート、口頭試問、小テスト等で評価する。（DP1）</p>	<p>【求める学生像】 入学選考にあたって、学術的な専門知識の上に疑問点の抽出、解決に向けての柔軟で論理的な思考力と豊かな創造性を発揮して研究を遂行する能力を得たい人を受け入れる。医科学はきわめて多様性に富む学問であるため、医学部以外出身者や社会人として医療に携わっているひとたちにも広く門戸を開き、新しい考え方で医学研究を遂行できる人材を受け入れる。また、障がい等のある志願者についても可能な限り受け入れる。</p>
技能	<p>【学修成果の目標】 医療・医学・生命科学の専門的研究手法・研究能力を修得し、正確性をもって活用できる。（DP2）</p> <p>【到達指標】 学位審査において、1 研究能力、2 研究方法の正確性を評価する。（DP2）</p>	<p>【教育課程の編成】 博士課程前半 1、2 年生は、全ての専攻分野に共通の必修科目を受講し、医学研究を実施していく上で基本となる統計学、研究倫理を身につける。2・3年生では、選択した専攻科の指導体制のもと専門性の高い演習・実習を行い、専門的な研究手法・研究能力を身につけ研究を実践する。</p> <p>【教育課程の実施（教育方法・授業形態等）】 統計関連講義2コマ、研究倫理関連講義5コマの必修授業を実施する。2・3年生には、選択した専攻科において12単位の演習と6単位の実習を実施する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 統計学関連および研究倫理関連については、必修授業として出席を評価する。各専攻科においては、活動状況、口頭試問、小テスト等で評価する。（DP2）</p>	<p>【入学者選抜の在り方】 医学研究は、内外の研究機関と共同・連携で実施されることが多く、その基本となる情報収集、情報交換のため、国際用語である英語の能力を見極める。医科学に対する興味、好奇心と目標とする研究を遂行するための能力、意欲、前向きな姿勢を見極める。</p>
態度・志向性	<p>【学修成果の目標】 医療・医学・生命科学の重要な専門分野について明確に説明し、分かり易く発表できる。（DP3）</p> <p>【到達指標】 学位審査において、1 発表能力、2 表現の明確性を評価する。（DP3）</p>	<p>【教育課程の編成】 博士課程前半修了時に中間発表会を実施する。各専攻科の教員を中心とする指導体制の下で研究を実施し、発表、論文作成を行う。</p> <p>【教育課程の実施（教育方法・授業形態等）】 大学院2年生全員に対し、他専攻科の教員や学生と議論する中間発表会を実施する。各専攻科の指導教員および指導補助教員が、個別に研究計画立案、研究の実践、発表、論文作成を指導する。</p> <p>【学修成果の評価方法】 研究過程を途中で公表することにより研究の質の向上と遅滞ない研究の遂行を促す。課程修了者へのアンケートおよび受講者への授業科目アンケート行い有効性を計測する。各専攻科においては、発表、プレゼンテーション能力、論文等で評価する。（DP3）</p>	